



上川井だより

3月号

平成 30年 3月1日
横浜市立上川井小学校
校長 山田 アイ子

「一人一人の成長」

校長 山田 アイ子

「泣きながらも、かけ算九九に何度も挑戦する姿に驚いた」「学校の門まで来ると、途端に足取りが重くなっていたのに…今は笑顔で登校してくるようになった」「野菜をほんの一口ずつ、やっと食べていたのに、今はお代わりをするようになった」「手を挙げることは殆どなかったのに、自分から挙げるできるようになった」…これは職員室の先生たちの会話です。平成 29 年度も残り 1 か月となりましたが、子どもたちの成長がいろいろな場面で見られるようです。

今年度は、「学力の向上」と「地域との関わりや結びつきを大切に」を学校経営の重点目標として、具体的な手立てを基に取り組んできました。様々な取り組みや日々の生活の中で、冒頭に挙げたような子どもたちの姿が、見られるようになりました。はっきり見える成長もありますが、言葉や行動、人を思いやる心など、目に見えにくいことの中にも、子どもたちの成長を感じます。

今年度の取り組みの一つとして、「上小チャレンジカップ」があります。スポーツ大会のようですが、「上小 Homework」のまとめとして、毎月、実施しているテストです。結果に応じて、「満点シール」や「頑張ったシール」があります。今年度最後の 2 月チャレンジカップの時間に、6 年生の教室に入ると「校長先生、最後のチャレンジカップは満点をとれなかった」と、声をかけてくれた子がいました。その 6 年生が、9 回のうち、5 回も満点を取っている頑張り屋さんであることは、知っていましたが、これまで、話しかけられた記憶がありませんでした。ですから、自分から声をかけてくれたことに、一瞬、驚きましたが、「残念だけれど、9 回のうち 5 回も満点をとれるなんて、頑張ったねえ」と返すと、黙って、笑顔で頷いていました。たったそれだけの会話でした。でも、その会話に、その子の成長を感じて、何とも言えない穏やかな気持ちになりました。

また、低学年の教室を回っていくと「校長先生、見て、すごいでしょ。これだけ頑張ったよ」と、得意そうな顔で「上小 Homework」を見せてくれた子がいました。「上小 Homework」を忘れてくることが多くて、担任が悩んでいることを知っていたのですが「すごいねえ。頑張ったね」と、声をかけました。担任や保護者の方の声掛けがあって、やり遂げた「上小 Homework」だとしても、子ども自身が頑張ったことに、間違いはありません。最初は手伝ってもらったことが多くても、少しずつ、自分でやるが多くなれば良いと思うのです。

子どもたち一人一人が、自分の成長や頑張りを実感できれば、次の意欲に繋がるはずですが、子どもが自分の成長を実感するには、周りが「頑張ったね」と認めてあげることも大切だと思います。認められることで「自分が大切にされている」や「自分でいいんだ」が理解でき、自分らしく生きることにつながると、子どもたちを見ていて思いました。

3 月 17 日（土）に、17 人の 6 年生が卒業していきます。6 年間、ずっと同じ仲間と過ごし、強い絆をもつ 17 人です。たくさんの愛情に包まれて、育ててきた 17 人は、本当に頼りになる優しい 6 年生に成長してくれました。中学生になっても、自分らしく頑張ってくれることを願っています。

保護者の皆様、地域の皆様の温かいご支援が、子どもたちの成長につながったと思います。心より感謝申し上げます。